

ピロール資材 使用法【水田用】 (福井県の場合を例に) 施肥量…10a当り60kg×2回

散布時の注意!

月/日	4/15	4/30	5/10	5/17	6/25	7/10	7/20	8/4	8/7	8/20	9/13	9/20	
生育時期	出芽		有効分けつ 決定期										
管理	作業	除草剤 播種 整地 田植			溝切り							刈り取り	
	施肥	基肥		根付肥		1回目ピロール資材			穂肥		2回目ピロール資材		
	防除	箱消毒		除草剤散布			葉いもち 予防		穂首 イモチ 防除				
	種子消毒												
水管理			深水			浅水			浅水		落水		注 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
ねらい	育苗育成		植傷みさせない			早期分けつ確保			1株25本程にする				
備考	<p>● 施肥量は10a当り60kg</p> <p>● 乾燥剤で箱当り120g</p> <p>● 薄播き充実した苗づくり</p> <p>● 基肥は地力に合わせて窒素2〜3kg</p> <p>● ① 窒素成分を多く使わない</p> <p>● 早期分けつ確保</p> <p>● 坪当り50〜60株値とする</p> <p>● 一株3〜4本植え</p> <p>● 暖かい日の田植え</p> <p>● 活着後浅水管理</p> <p>● ② 散布後10日程落水しない</p> <p>● ③ 有効分けつ20本〜23本時</p> <p>● ④ 中干しはしない</p> <p>● ⑤ 土の中より酸素が発生</p> <p>● ⑥ 根ぐされしない</p> <p>● ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿</p> <p>● カメムシの防除を必ず行う</p> <p>● 10日置き2回</p> <p>● 穂首イモチ防除は出穂直前必ず行う</p> <p>● ② 走り穂が出る頃にピロール資材2回目施肥</p> <p>● ③ 散布 10日程落水しない</p> <p>● 刈取前と青刈一穂五粒位の間断通水により、調節する</p> <p>● ④ 刈取適期は水分25%</p> <p>● ⑤ 珪カルは入れる必要がない</p> <p>● ⑥ わらは燃やしてよい</p> <p>● ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿</p> <p>● 深耕をする</p>												

ピロール資材は高アルカリ性のため施肥する時に手足にヤケドを負うことがあります。雨の日・風の強い日は施肥しないでください。また、2回目の暑い時期は汗のため軽いヤケドをおこしたようになることがあります。布などで肌を覆うなど皮膚の弱い方は特に注意してください。

ポイント!

○ピロール資材は施肥する**時期が大切**です。  
 ○稲の一生を通じて**水分の補給**が必要です。  
 ○**中干し**をする場合は足跡が付く程度に抑えます。  
 ○ピロール資材施肥の1回目から2回目にかけて、隣の水田よりも葉色が薄く感じる場合があります。このとき、肥料が不足していると考え、窒素肥料を多量に施肥しないでください。**ピロール資材は後発型(効き目が遅くでる)です。**あせらないで待っててください。

○**刈り取りを急がないでください。**刈り取りの時期は、従来よりも5〜7日遅れることがあります。これは下葉が枯れ上がらず、最後まで登熟がなされるためです。その分、くず米が出にくくなります。  
 ○元肥料は、従来の2〜3割程度減肥してください。(出来過ぎを防ぐため)  
 ○有機物を入れる場合は秋のうちに散布してください。

【動力散布機を使用する場合】暑い時期には資材袋が汗をかいて濡れていることがあります。(資材は日陰に保管ください。)袋の口を大きく開け、約10分ほど置くと空気中にある炭酸ガスで乾きます。